

2023
JULY

No.36

鹿児島大学 同窓会連合会報

実りの秋の農学部附属農場と桜島



特別
寄稿

人生の中で光り輝いていた頃

中島 省三（理学部化学科 昭和45年卒業）

「記・紀」を裏側から見る 一封印された邪馬台国と葬られた出雲の国が蘇える一

濱田 博文（医学部医学科 昭和46年卒業）

鹿児島大学同窓会連合会

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
- 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
- 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第36号会報(令和5年7月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



鹿児島大学9学部9研究科を卒業・修了された約12万人のOB、OGの皆様、「新型コロナウイルス感染症」パンデミック下での苦しい3年間を無事に乗り越えてお元気にお過ごしのことと存じます。ようやく「新型コロナ禍」から徐々に解放されて新しい日常の生活が戻ってきました。

今年・令和5年度は、「新型コロナ禍」以前と同様に鹿児島大学入学式と同じ週の土曜日（4月8日）に鹿児島大学同窓会連合会総会および懇親会（卒業生の集い）を対面方式で開催できました。懇親会は2019年以来、実に4年ぶりの開催でした。しかしながら、まだ「密を避ける」ために出席人数の上限が設けられており、懇親会は4年前の半分・約100名の出席者でした。このように、出席者数に上限はありましたが、「待ちに待った懇親会（卒業生の集い）」は、久しぶりの学部を越えた再会を喜び、お互いの絆を深める賑やかな会になり、最後は「巻頭言～北辰斜めに」のCD版を会場で流し、歌声は出さずに心の中で歌い、万歳三唱で祝いながら終わりました。来年以降は、徐々に出席者が増え賑やかな懇親会になり、同窓会活動の発展に繋がること期待されます。なお、総会および懇親会の様子は同窓会連合会のHP (<https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/2023/04/5.html>) に詳細に紹介されていますのでご一読してください。

このように、同窓会連合会懇親会を再開できましたので、「withコロナ」という新たな社会情勢の中、同窓会連合会も、連合会を構成する9学部の同窓会と同様に新たな活動を模索しながら進め、鹿児島大学の卒業生、在校生とともに同窓会本来の先輩・後輩という縦横の活動を進め、同窓生の絆を深め、母校鹿児島大学の発展に貢献していきたいと思っておりますので卒業生・修了生の全会員のご協力をお願いいたします。

鹿児島大学同窓会連合会は2004年1月16日に「設立準備委員会」が発足し、約1年間の準備の後翌2005年4月7日に「設立総会」が開催され、来年は20周年を迎えることになります。今後も全学部の卒業生、修了生の皆様とともに力を合わせて、母校・鹿児島大学と私たち同窓会の発展のために尽力して行きたいものです。卒業生、修了生の皆様のご協力と後押しをお願い申し上げます。

最後に、皆様のますますのご健勝と発展をお祈りいたします。

目 次

第36号会報（令和5年7月発行）に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	7
特別寄稿（理学部、医学部）	16

学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



鹿児島大学同窓会連合会の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。コロナ禍で敷かれた厳戒態勢も、5月に入り、新型コロナウイルス感染症の感染症法での分類が2類から5類に引き下げられ、季節性インフルエンザと同様な扱いとなったことにより、通常の態勢に戻りつつあります。対応面ではかなり負担も減り、コロナ禍前に戻ったかのような様子が見られるようになってまいりました。何よりも精神的な開放感を感じることも多く、長く閉ざされた冬の後の春を感じる気分の日この頃です。

今春、本学におきましては、鹿児島市民文化ホール（川商ホール）にて令和4年度卒業式及び令和5年度入学式を、各々全卒業生と全入学生を一堂に会して開催することができました。昨年までの3年間は、各学部・研究科の代表者のみの参加する式典を学内で執り行い、何かと寂しい思いが込み上げる雰囲気でしたが、今春、4年ぶりに一堂に会する式典を開催いたしまして、開催準備においては、「ここはどのようにしていただろうか？」などと確認が必要な場面も多々ありましたが、やはり2千人以上が集う式典は喜びに溢れており、本学にとってなくてはならないものと実感する次第でした。4月8日には、同窓会連合会総会と懇親会も開催されました。懇親会の開催は、やはり4年ぶりとのことで、皆様のお顔は喜びに満ち、笑顔での懇親が活発に行われる姿を拝見することができ、久々に満足感を覚えるエピソードとなりました。

本学の近況については、別稿で掲載されることとは存じますが、ここでも運営や教育・研究・診療面でご紹介が必要なトピックについて少しだけ触れさせていただこうと思います。まず、昨年6月の本学学長選考・監察会議での審査の結果、私、佐野輝がさらに令和5年4月から2年間の任期で再任することが決定されました。すでに二期目の任期に入りましたが、引き続き2年間、学長としての任に邁進いたしますので、皆様のご協力を是非ともよろしくお願い申し上げます。そして、大学を挙げての事業としましては、令和6年度から事業開始を考えております南九州畜産獣医学拠点整備事業において、国内屈指の畜産フィールドを活かした実践的畜産獣医学教育及び専門家の学び直し教育を行う拠点を構えるべく、旧財部高校跡地に着々と整備が進められています。また、理系の教員を中心とした研究力強化の策も次々と手を打ちつつありますので、成果は徐々に上がってくるものと確信しています。鹿児島大学病院では、昨年12月にロボット手術センターを設置し、ロボット手術を行う5診療科が診療領域や職種の垣根を越えて技術の共有や連携の強化を図り、患者の体に優しい安全な手術を目指しています。人文社会学系に対する取組みとしては、「鹿児島の近現代」教育研究拠点整備事業と銘打ち、「鹿児島の近現代」教育研究センターの設置、鹿児島の近代化に関する研究の促進、近代化遺産を活用する地域マネジメント研究の推進、地域人材の育成を目標として整備充実を図っています。また、大学の使命としての文化的遺産の保存及び継承の役割を果たすため、鹿児島銀行から援助を戴き、かぎん「玉里文庫」貴重書保存事業を開始しています。この事業では、本学の貴重書である「玉里文庫」の保存事業の充実を目的としたデジタル画像化事業及び画像の活用事業を行っています。

以上、簡単ですが、大学全体の近況をお伝えしました。

皆様のますますのご発展を祈念するとともに、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

鹿児島大学の近況

－進取の気風あふれる総合大学－

(2022年11月から2023年4月までのトピックス)

○秋季オープンキャンパス2022を開催（11月21日）

11月12日、鹿児島大学では秋季オープンキャンパスを開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面とオンラインでハイブリッド式での開催。

ベストティーチャー賞受賞者によるミニ講義（文系・理系）、国際バカロレア生を対象としたIBCafé、オンライン個別相談会や女子生徒向けの座談会、また、学部独自企画として、学部・学科紹介、体験講義を行い、計540名の県内外の高校生・保護者にご参加いただきました。女子生徒向け座談会は、入学を希望する学部毎にグルーピングして行われ、在学生に受験対策の相談や生活で気を付ける点など質問。予定時刻を大幅に過ぎるほど盛り上がりを見せました。

多数の参加をいただき、ありがとうございました。

○第61回鹿大祭を開催－黎明－（11月30日）

11月11日から13日にかけて、第61回鹿大祭を開催しました。

今年は3年ぶりに一般の方々を迎え、飲食を伴う模擬店も出店しました。

今回は、飲食スペースを設けるなど新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、熱いステージや展示、模擬店で賑わいました。

今年の統一テーマは「黎明 学生文化の新しい一步を！」。鹿大祭を通じ、明け方の空のような希望溢れる学生文化を創造したいという思いが込められています。

当日は郡元キャンパス内の各所にて、創意工夫された取組や成果を発表する姿が見られました。3日間、多数の参加をいただきありがとうございました。

なお、桜ヶ丘地区につきましては、11月19日から20日にかけて大学祭を開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染状況を鑑み、学内限定で行いました。

○中小企業の魅力発見講座－社長と語ろう－を開催（12月6日）

2022年11月30日、「中小企業の魅力発見講座－社長と語ろう－」を学習交流プラザ2階学交流ホールで開催しました。

この講座は、全学部・全学年を対象に、鹿児島県内の中小企業経営者の方をお招きし、座談会形式で将来設計に役立つ話をしていただき、学生からの質問に直接お答えいただくという企画です。

講座では、「経営者ってどんなことを考えているの?」「起業のきっかけは?」「イマドキの働き方ってどうなの?」「選考で何を見ているの?」「コロナ禍で地域経済はどうなるの?」等の話をテーマとして経営者の方と学生が情報交換を行い、学生の就職活動への意識を高めていく様子が見られました。

今回は、本学の留学生2人も参加し、ベトナム出身のトアンさんは、「良いアドバイスをいただいた。例えば、日本の会社に就職したい時にどうすれば良いのか、経験を積むことの必要性、社長の仕事はどういうことなのかなど、自分に役に立つことを教えてもらい勉強になった。」また、韓国出身の韓さんは、「社長から直接いろいろなお話を伺い、質問にも即座に应邀いただき、本で読むのとは違い、視野が広がる経験となった。」とコメントしました。

キャリア形成支援センターでは、今後も就職活動を控える学生へ情報提供の場を設けていく予定です。

○稲盛和夫鹿児島大学名誉博士のお別れの会を執り行いました（12月22日）

12月19日、鹿児島大学では、去る8月24日に逝去された稲盛和夫鹿児島大学名誉博士の生前のご功績を讃えるとともに、これまでの本学への多大なる貢献に感謝し、お別れの会を執り行いました。

お別れの会の会場となった学習交流プラザでは、午前中には稲盛名誉博士にゆかりのある経済界や行政の関係者、午後には一般の方や教職員・学生らが参列し、1日を通して約800人が流れ献花により故人を偲びました。また、会場2に設けた稲盛名誉博士の足跡や思いなどの写真パネルを展示したメモリアル会場

では、参列いただいた方々が時間をかけてご覧になっていました。

○【法文学部】司法政策教育研究センターと鹿児島県社会保険労務士会の連携協力協定調印式を開催（2月6日）

2月3日、法文学部附属司法政策教育研究センターは、鹿児島県社会保険労務士会との連携協力協定調印式を開催しました。

これまでも同センターと鹿児島県社会保険労務士会は、同センターの前身である法科大学院の時代から、科目等履修生制度の活用やセミナーの開催等を通じて連携を深めてきました。このたびの協定により、これらの活動を継続的に実施し、両者の関係をより深めるために、「相互の資質の向上及び連携強化を図り、もって地域社会に貢献するため、互いに交流を深める」ことを趣旨として、定期的な会合を持つこととなります。

今年度内の活動として、同センターが実施するロイヤリング実践セミナーに鹿児島県社会保険労務士会会員の方に参加いただき、研修を受けていただくこと、また来年度には、同センターが法文学部に提供する科目に、鹿児島県社会保険労務士会から講師を派遣いただくことなどを予定しています。

○令和4年度卒業式・修了式を挙行 ～ご卒業・修了おめでとうございます！～（3月23日）

3月23日、川商ホールにおいて、令和4年度卒業式・修了式を挙行しました。

今年度の卒業・修了生は、学部卒業生1,859名、大学院修了生556名の計2,415名です。

今年度は4年ぶりに卒業生・修了生のみに関り一堂に会し開催。ご来場いただけない卒業生・修了生、ご家族の皆さまへ向けては、式典の様子をYouTube鹿児島大学公式チャンネルにてライブ配信を行いました。

式では、佐野輝学長が、各学部からの代表者9名、各修士課程・各博士課程からの代表者10名、計19名に学位記を授与しました。続いて、鹿児島大学稲盛賞、鹿児島大学工業倶楽部賞および鹿児島大学商工会議所会頭賞を各受賞代表者に授与しました。

佐野学長は告辞の中で、本学を卒業する2,415名への祝意と、学生をこれまで支え励ましてくださったご家族の皆様への謝意を述べるとともに、「若き薩摩の群像」の一人で初代文部大臣森有礼の功績を紹介し、本学での学びを誇りとし自信と勇気をもって国内外の課題に挑戦してほしいと激励しました。

最後に、服部隼さん（歯学部5年）による在学生総代送辞、池袋陽香さん（法文学部4年）による卒業生総代答辞が行われ、式は厳かに終了しました。

本学を卒業・修了される皆様、本当におめでとうございます。

これから、社会を力強く牽引するリーダーとして活躍・大成されることを期待しております。

○【地域防災教育研究センター】冊子「鹿児島大学の地域防災活動」を発行（3月30日）

地域防災教育研究センターでは、地域防災力の向上のため、自治体をはじめ地域の依頼に応え活動できる教員を紹介した「鹿児島大学の地域防災活動」（冊子）を発行しました。

同センターでは、自治体や防災関係機関、地域住民のみならずさらに緊密に連携し、総合大学としての研究や活動の成果を活かして、災害から生命や財産を守る活動を応援するための取り組みを推進しています。このような中で、自治体やシンポジウム等の参加者の方から、教員の活動が見えず相談しづらいとお声をいただいたことをきっかけに、冊子を制作しました。

この冊子では、同センター運営委員会委員を中心とした教員16名について、地域防災力の向上に関する対応可能な活動や活動実績、専門分野等を紹介しています。皆様には、冊子を参考に希望の教員を選択の上、同センター事務局までご連絡いただくことで、関係教員とのマッチングから教員の現地での活動まで、よりわかりやすく同センターをご活用いただけるようになりました。

○【医歯研】鹿児島県と寄附講座「感染症専門医養成講座」の設置に関する協定書を締結しました（4月3日）

鹿児島大学は、3月30日、鹿児島県庁において、鹿児島県からの寄附により設置する「感染症専門医養成講座」の設置に関する協定書を締結しました。

本講座は、令和5年7月1日から令和9年3月31日までの期間で、鹿児島県からの寄附により大学院医歯学総合研究科に設置される講座であり、平時から感染症の発生やまん延時における医療体制を整備するため、感染症専門医を養成し、健康危機管理体制の充実を図ることを目的としており、講座終了後は、大学病院に感染症科を設置し、引き続き感染症専門医を養成していく予定としています。

協定締結式では、佐野輝鹿児島大学長と塩田康一鹿児島県知事が協定書に署名した後、両者から挨拶があり、佐野学長は「この講座において、4年間で、新たに6名の感染症専門医を養成するとともに、これまで以上に、地域連携による県内感染防御体制の強化に貢献していきたい」と抱負を述べました。

○大崎町との包括連携協定を締結（4月4日）

鹿児島大学と大崎町は、平成23年6月に締結した「大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定」を発展させ、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、より幅広い分野で相互に包括的に連携協力して地域社会の活性化に寄与することを目的として包括連携協定を締結しました。

3月27日に大崎町役場で執り行われた調印式では、佐野輝学長と東靖弘大崎町長による協定書への署名に続き、東町長が「急速に進む少子高齢化や生産年齢減少による働き手不足など大きな社会環境の変化の下で、鹿児島大学の知的・人的・物的資源を活用しながら町の活性化に取り組みたい」と挨拶。続いて佐野学長より「ごみのリサイクル率日本一を14回達成する「大崎リサイクルシステム」を確立している大崎町との協定締結を機にSDGs達成に向けた全学的な取組を加速し、持続的な社会の実現に貢献していきたい」との決意が述べられました。

鹿児島大学は、大崎ものづくり会館内に鹿児島大学大崎活性化センター及び大隅産業動物診療研修センターを設置しており、大崎活性化センターにおいて、法文学部による多文化共生事業や、工学部によるロボットプログラミング教室などを個々の連携で実施してきているほか、共同獣医学部の附属動物病院の分院として設置された大隅産業動物診療研修センターでは、開設以来、大隅地域の2農業共済組合（曾於、肝属）の組合獣医師と連携を取って診療を行ってきており、今回の包括連携協定締結を機にさらなる連携協力の強化が期待されます。

なお、調印式後には同町内の埋立処分場や大崎有機工場などの施設を視察しました。

○令和5年度入学式を挙行～ご入学おめでとうございます～（4月7日）

4月7日、川商ホールにおいて、令和5年度入学式を挙行しました。

今年度の入学生は、学部入学生1,942名、大学院入学生606名の計2,548名です。

今年度は4年ぶりに新入生が一堂に会し開催。ご来場いただけない新入生とご家族の皆さまへ向けては、式典の様子をYouTube鹿児島大学公式チャンネルにてライブ配信を行いました。式では、佐野輝学長による入学許可の後、学部と大学院それぞれを代表し、上野綾奈さん（教育学部）と愛下由香里さん（保健学研究科）の2名が入学生宣誓を行いました。

佐野学長は告辞で、入学生に祝意を表するとともに、鹿児島医学校で教鞭をとった英国人医師ウィリアム・ウィリスの鹿児島医学校での一番弟子となった薩摩藩士・高木兼寛に触れ、勉学のみならず、心も鍛えて相手に配慮ができる良き大人になっていただきたいと激励し、将来、鹿児島大学で学んだことに自信と誇りを持てるよう、鹿大生として充実した日々を送ることができるよう願っています。夢を持ち、実現に向けて努力を行い、鹿児島から世界に羽ばたいてください、とエールを贈りました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんがこれから鹿児島大学で自らをいっそう鍛え、大きく成長されますことを教職員一同願っています。

○【教育】鹿児島県市町村教育長会との連携・協力協定を締結（4月12日）

鹿児島大学教育学部及び鹿児島大学大学院教育学研究科と鹿児島県市町村教育長会は、鹿児島県内の学校や教育委員会が企画する教育活動や教員研修ならびに、鹿児島大学の実践的カリキュラムの更なる充実を図ることを目的として連携・協力協定を締結しました。

3月29日に本学で執り行われた協定締結式では、有倉巳幸教育学部長（兼教育学研究科長）と原之園哲哉鹿児島県市町村教育長会長（兼鹿児島市教育委員会教育長）による協定書への署名に続き、原之園会長からは「高度化・多様化が進む学校環境に対応するために鹿児島大学の資源・教員を活用させていただくとともに、大学のニーズである教育実践の提供により相互に高め合っていきたい」との挨拶があり、続いて、小倉寛恒副会長（兼始良市教育委員会教育長）から「これまでは個々の繋がりであったが、今後は県全体の教育長会として教授し合えることは大変有難く、また、教員不足の解消にも繋がることを願う」、中野健作副会長（兼鹿屋市教育委員会教育長）から「鹿児島県市町村教育長会と鹿児島大学は運命共同体であり、これまで様々な連携を行ってきたが、このように正式な形で連携することで更なる相互の成長・発展に繋げていきたい」とそれぞれ挨拶があった後、有倉学部長から、「今回の協定締結により、情

報交換がスムーズで正確になることで教員養成や研修の活性化が図られ、また、双方のニーズに対する確かな対応ができる体制を築いていきたい」との抱負が述べられました。

教職員の受賞等

- ①農学部附属焼酎・発酵学教育研究センターの高峯和則教授らの研究グループが日本醸造協会技術賞を受賞（11月22日）
- ②教育学部国語教育の原田義則准教授が代表の鹿児島国語教育研究会 原国会が第53回博報賞（国語教育部門）を受賞（12月6日）
- ③農学部附属農場の野村哲也技術専門職員が全国大学附属農場協議会令和4年度全国大学農場技術賞を受賞（12月21日）
- ④医歯学総合研究科免疫学分野の笠松純講師が、第51回日本免疫学会学術集会にてベストプレゼンテーション賞を受賞（2月28日）
- ⑤水産学部の大富潤教授が、文化庁食文化「知の活用」振興事例に認定（3月27日）

学生の表彰等

- ①「日本セラミックス協会 第35回秋季シンポジウム」で、理工学研究科博士前期課程2年の内田陽介さんが「学生優秀講演賞」を受賞（11月1日）
- ②日本産業動物獣医学会で、共同獣医学研究科1年の河野亜紀さん、共同獣医学部6年の田原和貴さんが九州地区学会賞を、共同獣医学部5年の和田実央理さん、共同獣医学部2年の井上永愛さんが奨励賞を受賞（11月7日）
- ③「第18回『話してみよう韓国語』鹿児島大会2022」の一般スキット部門で、法文学部1年の岡田和叶さん、射場清良さんが優秀賞を、法文学部1年の野間あかりさん、時松杏奈さんが奨励賞を受賞
スピーチ部門で法文学部2年の井上由依香さんが最優秀賞、法文学部4年の下野愛理さんが優秀賞、法文学部4年の中村夏鈴さんが奨励賞を受賞（12月13日）
- ④「Japan-Taiwan Bilateral Workshop on Nano-Science 2022」で、理工学研究科博士前期課程2年の早瀬嶺磨さんと理工学研究科博士前期課程1年の福吉安寿実さんが「Excellent Poster Presentation Award（優秀ポスター発表賞）」を受賞（12月13日）
- ⑤連合農学研究科博士課程3年の池田麻美さんが国際ソロプチミスト鹿児島女性研究者賞を受賞（12月21日）
- ⑥「電子情報通信学会九州支部2022年度（第30回）学生会講演会」で、理工学研究科2年の玉城大生さんが学生会講演奨励賞を受賞（2月3日）
- ⑦「第21回進化計算学会研究会」で、理工学研究科1年の田島彩音さんがプレゼンテーション賞を受賞（2月3日）
- ⑧第39回NHK全国大学放送コンテストの音声CM部門で、鹿児島大学放送研究会がグランプリを獲得（2月10日）
- ⑨第15回全日本大学対抗ミートジャッジング競技会で、農林水産学研究科1年の片渕歩美さんと農学部農業生産科学科2年の林咲有紀さんが、大学対抗部門で第2位に入賞（3月16日）
- ⑩情報処理学会第85回全国大会～ダイバーシティと情報処理～で、工学部先進工学科4年の永井裕也さん、廣瀬雄大さん、濱田悠樹さん、森本文哉さんの4名が「学生奨励賞」を受賞（4月5日）

海外の大学等からの学長表敬訪問

- ①在日ミクロネシア連邦大使館のジョン・フリッツ大使一行（12月2日）
- ②韓国 中央大学のヒチョン・ペク教授及びアメリカ ベレアカレッジのモニカ・ケニソン教授（3月9日）

<以上、鹿児島大学ホームページから転載>

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 令和4年度法文学部卒業祝賀会・同窓会入会式開催

令和5年3月23日（木）鹿児島大学の卒業式は川商ホール（鹿児島市民文化ホール）で開催されました。卒業式終了後、法文学部同窓会・後援会でバスをチャーターして法文学部まで卒業生を送り届けました。そして、午後2時から法文学部201号室と共通教育棟121、131講義室において、法文学部卒業祝賀会・同窓会入会式を行いました。

まず松田法文学部長から各コースの代表者7名に卒業証書が授与されました。その後、松田学部長から式辞、今村同窓会長から祝辞があり、法経社会学科法学コースの澤田碧さんが卒業生・修了生を代表して謝辞をされました。

祝賀会・入会式終了後、卒業生には卒業証書と同窓会・後援会提供の卒業記念品が授与されました。また、同窓会・後援会から卒業生には軽食と飲み物が提供されました。

なお、今年度も同窓会表彰は該当者なしでした。



今村同窓会長



卒業生代表謝辞・澤田さん

2. 鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

令和5年2月25日（土）第20回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は天候にも恵まれ、36名の参加で20回の記念大会として白熱したプレーが展開されました。優勝は昭和53年法文学部法学科卒の島野秀之さんでした。成績は以下のとおりです。

優勝	島野 秀之（S53年、法文学部法学科卒）	ネット	73.2
2位	伊牟田 均（S45年、法文学部経済学科卒）	ネット	74.0
3位	木場 晃（S41年、文理学部理学科卒）	ネット	74.2
4位	今原 和郎（S50年、法文学部経済学科卒）	ネット	74.8
5位	堀之内達也（H10年、法文学部経済学科卒）	ネット	75.2
ベストグロス	伊牟田 均（S45年、法文学部経済学科卒）	グロス	80

*次回は令和5年10月21日（土）、南国カンツリークラブです。

多くの皆様の参加、よろしくお願いたします。

申し込みは今村会長（携帯090-1870-8661）まで。

教育学部同窓会

躍動する教育学部同窓会

教育学部同窓会は「会員相互の親睦」と「母校の発展と教育の振興」を原点に据え、総務・研修・広報の専門部活動を新しい発想で鋭意すすめている。

今号では総務部の取り組みを2点「教育学部ゴルフ大会」と「定期総会・講演・懇親会」について紹介したい。



(南国CC16番ホール)



○同窓会設立25周年記念ゴルフ大会

同窓会設立25周年の記念イベントとしてゴルフ大会を計画した。

幅広い年齢層の交流の場として、また爽やかな自然に囲まれて心身共にリフレッシュする場として参加しませんかと会員に広く呼びかけている。

日 時	令和5年10月28日(土) AM8:00集合
会 場	南国CC(鹿児島市吉野町)
経 費	プレー代 9,000円 参加費 2,000円(内500円は賛助金)
参加者数	80名の予定 (卒業生・教育学部教職員・学生)

<申込等詳細は教育学部ホームページを参照>

○第26回 令和5年度 定期総会・講演会・懇親会

コロナ禍のため止む無く中止していた総会及び懇親会を3年ぶりに開催することとなった。

2月18日開催に向けての学年代表者が鴨池公民館で開催され、久保正和総務部長の趣旨説明のあと下記のとおりの日程案等が協議された。

鹿児島大学教育学部同窓会



日 時	令和5年8月6日(日) 10:00~14:00
会 場	サンロイヤルホテル 2F
日 程	9:30~10:00 受付 10:00~10:50 定期総会 11:00~11:45 講演等 12:00~14:00 懇親会
出席者数目標	90名程度
会 費	6,000円
懇親会世話係担当学年	昭和55年卒

(文責:教育学部同窓会総務部 末弘 絃一)

佐竹先生との思い出と活動報告

理学部同窓会南明会

笹脇 真一郎 (平3・化学)

全国各地でご活躍の同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は平成3年3月に鹿児島大学理学部化学科を卒業し、現在、学校法人津曲学園鹿児島修学館中学・高等学校で理科・化学の教員をしております。学生時代は、理学部化学科物理化学研究室で、佐竹先生、早川先生、前田先生の下、卒業論文に取り組みました。

物理化学研究室では、毎日、佐竹先生と一緒に昼食をとる食事会のようなものがありました。佐竹先生と一緒に、学生が昼食を食べます。ただ、食べるのではなく、色々な話をしていました。もちろん、研究に関する話をすることもありましたが、最近のアイドルの話などをすることもありました。佐竹先生が、昔の話をすることもありました。例えば、佐竹先生は、生野菜が嫌いなのですが、その理由が、小さい頃は戦時中で、生野菜をよく食べていたので、昔を思い出すということでした。

そして、この昼食の後、佐竹先生は必ず、お弁当箱を洗っていました。「いつも、作ってもらうのでこのくらいはしないとね。」とおっしゃっていました。佐竹先生が洗うので、学生も洗っていました。その時の習慣が、私は今でも続いています。大学生の頃は、母親に作ってもらった弁当を、今は妻に作ってもらった弁当を食べた後、毎日、職場で洗って帰るようにしています。妻はとても喜んでくれています。佐竹先生のおかげで、とても良い習慣を身に付けることができました。

また、学生を自分の子どものようにかわいがって下さいました。研究室のみんなで、自宅に伺ったことが何回もありました。毎回、奥様の手料理を御馳走になりました。食事をしながら、色々な話もしました。その中で、休日には、奥様と御一緒に、霧島へ行き、そこの温泉がとても素晴らしかったとおっしゃっていました。本当に仲がよいのだなと思いました。自分も佐竹先生夫婦のようになりたいと思い、仲人もお願いしました。そのような縁もあり、卒業後も正月など、伺わせていただいていた。佐竹先生と奥様ととても楽しい時間を過ごすことができました。

そして私、この度理学部同窓会南明会のゴルフ部長を拝命いたしました。これまで同窓会OB・OGゴルフ大会には法文学部同窓会さんと連合で参加していましたが、南明会にゴルフ部ができたことで単独で参加することができるようになりました。しかし、学部対抗には10名以上の参加が必要です。ゴルフに興味がある方は振るってご参加ください。優勝を目指して頑張りましょう。

佐竹 巖 先生（鹿児島大学名誉教授）は、令和4年7月17日に逝去されました。在りし日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。



筆者の学生時代(実験室にて)



佐竹 巖 先生
(2000年鹿大広報No.152より)

医学部同窓会

鶴陵会奨学金の復活

鶴陵会の奨学金制度については連合会会報第19号（2015年2月発行）で説明をしていますが、昭和57年の評議員会で佐多会長（当時）、柿木副会長（当時）の発議で鶴陵会の事業として開始されました。昭和57年から平成2年度までは一人あたり月額15,000円を毎年2～4名、平成3年度からは月額25,000円を毎年2名の学生に貸与してきました。平成19年度入学者まで奨学金事業は続けられましたが、平成20年（2008年）に申請者がいなかったことから、それを機に奨学金の貸与を中断しました。この制度は給付型奨学金ではないものの、無利息の貸与奨学金制度であり何とか復活したいと考えていましたが、鶴陵会自体の会計も厳しい状況になっており、すぐには再開出来ない状況が続いておりました。その後、滞っていた奨学金貸与金の返済も順調に進み始め、奨学金制度再開から奨学金返済金で次の貸与が賄えるまでの13年間分の資金も準備できた為、再開を決定しました。奨学金制度の内容については医学部医学科の協力を得て、在学中の学生にアンケート調査を行いました。その結果、従来通り、貸与期間は6年間、月額25,000円を毎年2名に貸与することが決まりました。制度の事務局は鶴陵会事務局ですが、貸与者選定については医学部医学科教授会に選考を御願いし、その後の手続きは鶴陵会で行います。従来の方式は返済の誓約書もない性善説の紳士協定のようなものでしたが、今回は誓約書を提出してもらい社会人となった後の連絡先の報告、返済の約束、同窓会入会金・会費納入の約束なども誓約書の内容に決めました。令和5年（2023年）入学者から制度を再開しますが、トラブルなく運用が出来ることを祈っております。

（文責：医学部医学科同窓会鶴陵会 会長 高松 英夫）

「新しい同窓会活動」に向けて

令和4年度もCOVID-19の影響を大きく受けた1年でした。LINEやZOOMといったツールを使用し、同窓会役員との連絡をとりつつも、対面で会うことができないことに、何かもどかしい気持ちを抱えながら保健学科同窓会活動を行ってきました。

そのような状況でも、COVID-19流行以前と同様に時間は過ぎていきます。従来の業務に加えて、マスク着用、手指消毒といった感染症対策を講じたり、可能な限り他者との接触を軽減するため、研修・学会はオンラインで開催・参加したり、と様々な工夫をしてコロナ禍の「新しい生活」に順応してきました。

令和4年12月、私はOSCE模擬患者として久しぶりに大学を訪ねました。COVID-19の影響で対面授業が制限され、オンライン授業では人間関係の構築や専門職としての技能習得が難しい、といった学生生活に否定的な世間の噂を耳にすることもありましたが、学生の皆さんの一途に学業に取り組む真っ直ぐな熱意は、COVID-19流行以前と何も変わらず、前向きな学生生活を過ごされているという印象でした。臨床実習という貴重な機会に向けて、日頃の学び成果を十二分に発揮しようと努力されている姿勢に、思いがけず私も背中を押してもらったような気がしました。

コロナ禍において、私たちのライフスタイルや働き方などは、急激な変化を余儀なくされましたが、窮屈な生活の中にも発展したことや多くの学びがありました。令和5年5月8日以降はCOVID-19が5類になり、これまでの「新しい生活」にコロナ禍での学びを活かした「もっと新しい生活」が始まります。今期、同窓会に加わる21期生と共に、同窓生の親睦・懇親を深め、母校や後輩の支援ができるよう、「新しい同窓会活動」を行って参りたいと思います。

（文責：保健学科同窓会理学療法学専攻部会 副会長 戸田 博之）

歯学部同窓会

歯学部同窓会 令和4年9月以降の主な活動報告

〈令和4年〉

- 9月3・4日（土・日） 九州デンタルショー 5大学歯学部ブース参加
佐藤副会長・白山専務 参加
- 9月22日（木） 歯学部5年生に臨床実習用の白衣贈呈
- 10月上旬 歯学部会報誌第31号発刊
- 11月10日（木） 進路相談会 Web開催
司会中囿先生 研修医制度の説明 講演 田實仁先生
- 11月19日（土） 総会・学術講演会・同窓会奨励賞の発表と贈呈式
歯科医師会館にてZoom・対面のハイブリッド形式で開催
同窓会奨励賞 受賞者
2補綴 原田佳枝先生・生化学 千葉紀香先生
イブニングセミナー 同時開催
1口外 杉浦剛教授 2口外 中村典史教授

〈令和5年〉

- 1月22日（日） Zoomにて女子会の開催
講師 広島大学准教授 松尾美紀先生
フリーアナウンサー 中村朋美先生
- 2月9日（木） 鹿児島大学同窓会連合会第3回役員会 村上会長、佐藤副会長出席
- 3月18日（土） 令和4年度第二回評議員会 開催（県歯科医師会館にて）
歯学部同窓会会長選挙 開催 谷口浩太郎 新会長選出
- 3月23日（木） 令和4年度鹿児島大学歯学部の学位記授与式が開催
小田陽菜乃さんが鹿児島大学歯学部同窓会賞を受賞

同窓会奨励賞受賞者



(原田先生)



(千葉先生)

工学部同窓会

令和4年12月19日、鹿児島大学主催「稲盛和夫名誉博士お別れの会」が鹿児島大学学習交流プラザで執り行われました。母校またふるさと鹿児島へ多大なご支援をいただいた稲盛氏へ弔意を表そうと献花には多くの方が訪れました。“稲盛和夫名誉博士お別れの会”に併せ稲盛会館が一般開放され、ご功績の紹介やゆかりのある方々から寄せられたメッセージ・写真の展示がなされました。氏とのエピソードをはじめ多くの惜しむ言葉が連なり、如何に大きな存在であったかを改めて思い知ることのできる内容に加え、同期会で楽しく語らう写真など温かい人となりがかげえ、来場者は足を止めて熱心にご覧になっていました（工学部同窓会会報 第20号抜粋）。



当日の稲盛会館



皆様からお寄せいただいた
メッセージ



思い出の写真の数々

工学部同窓会では、工学部の学生会員の諸活動と幅広い交流の助成を目的とした“工学部同窓会学生活動助成”および工学部、理工学研究科、工学部同窓会の発展に資する諸活動の支援を目的とした“工学部同窓会活動支援”を創設しています。以下に、令和4年度の助成・支援内容についてご報告いたします。

工学部同窓会学生諸活動助成

令和4年10月19日 海洋土木工学プログラム 研究室配属相談及び海土女子会（90名）

令和4年12月3日 化学生命工学プログラム 化生・環プロ合同ソフトボール大会（90名）

工学部同窓会諸活動支援

令和4年10月8日 南窓舎密会 企業セミナー（101名）

令和4年10月8日 A O I 会 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」（150名）

令和4年10月22日 錦水会 学生向け講演会「きぼっど会」（200名）

令和4年12月7日 機友会 学生と若手技術者との交流会（112名）

（文責：工学部同窓会編集幹事 福原 稔）



海洋土木工学プログラム
研究室配属相談



機友会 学生と若手技術者との交流会

農学部あらた同窓会

1. あらた同窓会HPをリニューアルいたしました。

あらた同窓会ではHPをリニューアルいたしました(右写真)。URLは<https://aratadousokai.org/>です。「あらた同窓会報バックナンバー」、「写真ギャラリー」、「役員名簿」などカラフルで読みやすくなっていますのでご覧ください。今後も充実を図っていきます。



2. 令和4年度総会(兼評議員会)を開催しました。

2022(令和4)年11月23日に「令和4年度農学部あらた同窓会総会(兼評議員会)」を農・獣共通棟101号教室を借用して開催いたしました。「新型コロナウイルス感染症パンデミック」以前には総会に引き続いて開催していた「懇親会」は中止いたしました。この開催方式は前年(令和3(2021)年)と同じです。総会(兼評議員会)の出席者は28名で以下の協議事項について審議し、いずれも承認されました。(1)令和3年度事業報告(案)について、(2)令和3年度の一般会計収支決算(案)、名簿特別会計収支決算(案)および功労者表彰特別会計収支決算(案)について、(3)令和3年度会計監査報告について、(4)令和4年度事業計画(案)について、(5)令和4年度の一般会計収支予算(案)、名簿特別会計収支予算(案)および功労者表彰特別会計収支予算(案)について、(6)役員交代・改選(案)について。詳細については「鹿児島大学農学部あらた同窓会報令和5年春季号」の24~31ページに掲載し、あらた同窓会HPにもアップしました。なお、次年度は懇親会も開催できるようになることを期待しています。

3. 「あらた同窓会報令和4年秋季号(学生向け会報)」を発行いたしました。

令和4年11月23日には「あらた同窓会報令和4年秋季号」を発行いたしました。総ページは表紙を含めて20ページでした。秋季号は学生会員向け会報であり、執筆者のほとんどが在学生で、「あらた同窓会長・巻頭言」、「農学部長・挨拶」、「追悼文」に続いて「ピバ・キャンパスライフ」が9編、「教育実習奮闘記」が3編、「インターンシップ体験記」が3編、「介護体験記」が3編、「留学体験記」が2編でした。内容については、あらた同窓会HPでお読みいただけます。

4. 「あらた同窓会報令和5年春季号(一般会員向け会報)」を発行いたしました

令和5年3月23日には「あらた同窓会報令和5年春季号(一般会員向け会報)」を発行いたしました。右に目次を示しましたが、例年どおり「あらた同窓会長の巻頭言」、「農学部長のご挨拶」、「定年退職される先生方のご挨拶」、「会員からの寄稿(エッセーなど)」、「学生便り(卒業・修了にあたって)」および「本部だより(あらた同窓会の活動や会計について詳細に記載)」など表紙を含めて36ページの会報を発行できました。この春季号は農学部の学生・院生、教員の他、80歳以上の会員および終身会員(現在はこの制度はありません)、過去5年以内に会費納入をいただいている会員に加えて「会費納入の無い昭和43年から5年ごとの卒業生で住所が判明している会員」に郵送いたしました。また、あらた同窓会HPでもお読みいただけます。



目次	
1. 会長挨拶	2
大学構内にある遺構を文化遺産に	あらた同窓会長 藤田 晋輔
2. 学部長挨拶	3
副任のご挨拶	農学部長 橋本 文雄
3. 次期学部長挨拶	4
コロナ禍を過ごした学生の皆さんへ	次期学部長 宇野 行雄
4. 追悼文	5
原住 博先生を偲ぶ	岩井 久
5. 定年退職者挨拶	7
定年退職を遊んで	津田 勝男
院務・業務大震災から28年の歩み	院務 藤友 8
6. 特別掲載	9
部元キャンパスの歴史をたどる	石田 智子
山形県での研修プログラムの発見	坂本 祥平
7. 会員からの寄稿(エッセーなど)	10
内田 昭さんを読んで	渡辺 幸博
鹿児島女子大での高給者、専攻生活! 自分を愛するには努力と時間がかかる(その1)	大井 文明
東洋大学卒業生、教育で頑張っています	久保 隆三
コロナ禍の涙と今で変わったこと	沼田 新司
社会人4年目、これまでに振り返って	加藤 文貴
「鹿児島支部の活動報告」~「With コロナでの活動」~	柳澤 朝彦
そこに大義はあるのか?	菊岡 明
カライモ(オツマイモ)から鹿児島大学農学部への大きな期待	鹿嶋 健太郎
30年を振り返って	今松 隆雄
8. 学生便り(卒業・修了にあたって)	17
やりきった大学生活	宇部 望子
卒業後4年間の4年間	久保 隆三
私の分岐点	田中 龍太郎
鹿児島大学での日々	遠山 理輝
4年間を振り返って	百瀬 結音
北海道勤務になりました	村岡 寿安
アボカド	上水内 松太郎
9. 講師・院務のお慶びならびに院務の挨拶	21
10. 本部便り	21
11. 役員名簿	28
12. 会計報告	28
13. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則	28
14. 編集後記	28

水産学部同窓会魚水会

学位記授与式、魚水会賞授与式

令和5年（2023）3月23日（木）に4年振りに鹿児島大学卒業・修了式が川商ホール（市民文化ホール）にて挙行されました。式終了後に水産学部にて開催された学位記授与式、魚水会賞授与式において成績優秀者4名に魚水会賞授与および記念品を贈呈しました。



左より

佐久間学部長、岩元魚水会会長、
（魚水会賞）名越万真さん 津田周平さん
田村優佳さん 小塚大智さん
（当日欠席）川端健さん



同窓会誌魚水第76号令和5年（新年号）発刊

魚水第76号令和5年新年号を1月に発刊しました。編集委員には記事や編集が偏らないように学内、学外に限らず80代の委員、女性委員4名、二十歳前後の学生委員4名を含めて29名がボランティアとして頑張ってもらっています。会誌は、国内外を問わず住所が判明している入会金を納入している会員、教職員および在学生に配布しています。現在交流のある大学、鹿児島大学本部や各学部同窓会などにも配布しています。

記事は日本国内にとどまらず海外の会員、在学生などから募集しています。表紙は時々のタイムリーな写真を採用しています。

編集委員会に出席出来ない委員は事前に送付したゲラをチェックして提出しており、その内容を委員会で検討しています。現在は、次の第77号春夏号の準備に追われています。

5月10日（水）魚水会専務理事会を開催し、その後、何度も開催しました。

5月10日（水）魚水第77号（春夏号）第1回編集委員会が開催、7月に2回目が開催され、何度も校正を重ねて旧盆前に発行予定です。

5月13日（土）魚水会全国理事会 全国から支部長、ブロック長などが出席し、6月開催の全国総会などについて協議しました。終了後には懇親会を開催しました。

6月3日（土）魚水会全国総会2023福岡を福岡市にて開催しました。（詳細は次号に掲載）会員約140名が参加し、盛大に開催されました。

共同獣医学部紫友同窓会

令和5年度のここまでの活動等についてご報告します。

1. ベストクラスメート賞

本年度は34名の卒業生が巣立って行きました。新型コロナウイルス感染症蔓延もある程度収まり、3月23日には一堂に会しての卒業式・修了式が4年ぶりに開催されました。午後には、学部の学位授与式がこれも4年ぶりに開催され、同窓会としてはベストクラスメート賞を授与しております。本賞は卒業までの6年間にクラスのまとめ役を熱心に行った男女会員各1名を卒業生の投票により選出し表彰するものです。今年度は、平野佳史君と坂口実穂さんの両氏が選ばれ、新納会長から賞状と記念品が両名に授与されました。



2. 新入生の入会歓迎

4月4日に開催された新入生オリエンテーションで、新納会長が入学を祝い同窓会への入会を歓迎する挨拶を述べました。その中で、資料に基づいて同窓会の沿革やこれまでの学部への支援活動が紹介され、今後も学部や学生支援を継続していることを表明されました。また、新入生に対しては充実した学生生活を送ると共に、同窓会活動への積極的な参加と協力を期待する旨の発言がありました。

3. 同窓会連合会総会開催

4月8日に同窓会連合会総会が開催され、紫友同窓会代表として新納会長、鶴田副会長、伊地知監事、三角学部長、宮本評議員が出席致しました。その後、これも4年ぶりに懇親会が、マリンパレスかごしまにて開催されました。

4. その他

- 松元光春先生が3月末にて約40年間勤められた鹿児島大学を定年退職されました。長年に亘りご指導ありがとうございました。
- 同窓会から学生の学外臨床実習等への旅費補助は引き続き行う予定です。



▶特別寄稿◀

人生の中で光り輝いていた頃

理学部同窓会南明会

中島 省三（昭和45・化学）

理学部化学科を卒業して53年が過ぎようとしています。50年前の生意気盛りの頃を思い出しながら書きたいと思います。

高校時代に自分の将来について考える頃がありました。高校の化学の教員なら出来るのではないかと思いはじめました。その頃、私は久留米市の明善高校に通っていました。化学は古賀先生でした。先生は、高校時代は体操の選手で、きっぱりとしておられました。先生を通して次第に化学に引かれるようになりました。高校3年の時には友人と二人で、理科室に伺いゼミ形式で問題集の解説をしていただきました。それ以来、化学の問題を解くのが好きになり、化学を教える教員になりたいと思いはじめたのでした。思いつくのが遅く、ようやく次の年に鹿大の門をくぐることが出来ました。

教養時代は大学紛争の最中でした。授業に行くと、教養の校舎の入り口がバリケードで閉じられていました。「安全保障」「大学管理法」「ベトナム戦争」を巡り真剣に考えた時代でした。また授業の開始直前に、教室に入ってきた活動家の演説が始まり、授業に来られた講師と厳しいやりとりもありました。政治的な課題に敏感に反応した学生時代でした。私自身もサークル（管弦楽団）代表として自治会に出入りしていましたが、鹿大の自治会は穏健派だったと思います。「大学管理法反対闘争」では、大学の先生たちと一緒に天文館の電車通りをデモ行進したことを覚えています。大学祭の神輿パレードと違って、機動隊に取り囲まれ、緊張感もありました。

専門課程に進んで最初の日、理学部の中庭に集められ、先輩たちが迎えてくれましたが、先輩への挨拶の仕方の指導が中心だったように思います。今から思えば、昭和の学生だったのですね。

有機化学の長谷先生、物理化学の中村先生、生化学の富永先生、無機化学の鎌田先生、今思いだしても懐かしい先生方です。化学とはどういう学問なのかを、それぞれの分野を通して、詳しく教えて頂きました。化学の素晴らしさ、美しさを教えて頂きました。4年生になり研究室を決めることになりました。天然物有機化学に興味があり、有機化学の長谷研究室に入らせて頂きました。直属の先生は中谷先生でした。私には「ハマクサギの除虫成分について」の卒論のテーマが与えられました。古くからの伝聞でハマクサギには除虫成分があるらしいということでした。4年生になり、さっそくハマクサギの採集が始まりました。有機化学の4年生と中谷先生で近郊の野山を巡り、ハマクサギを採集しました。最初は木の側まで行って、葉の形で確認していましたが、そのうち、遠くからでもハマクサギが分かるようになりました。採集したハマクサギは、安楽孝照君の愛車「キャロル」で運びました。その後、実験室前の廊下で乾燥させてアセトン冷浸し、カラムクロマトで分離し、単離した物質の構造を決めるという作業が続きました。一連の実験を通して、天然物有機化学の醍醐味を味わったような気がしました。ただ残念だったのは、当時の理学部にはNMRやガスクロなどの分析機器がなく、分析はすべて外部機関への委託でした。ひよっこみたいな私を叱咤激励して指導して下さった中谷先生には感謝しています。その後、鹿児島県の高校の理科の教員として33年間働くことが出来ました。退職後は神学校で学び、現在は鹿児島復活教会で司祭として働いています。科学と宗教は一見相反するようですが、ニュートンやダーウィン、メンデルもキリスト教の信仰を持ちながらの科学者でありました。美しい自然の中に神が与えられた法則を見つけ出した人々でもあったのです。

多くの先生方に教えを受け、友人たちと共に過ごした理学部化学科での2年半は私の人生を決定づけるものとなりました。この体験は光り輝くものとして、私の心に刻み込まれています。

令和5年3月24日に安楽孝照君が逝去されました。化学科の廊下に彼の声が響いていたことを思い出します。福岡出身の私に、彼は正しい鹿児島弁を教えてくださいました。心よりご冥福をお祈りいたします。



写真 鹿児島大学交響楽団時代の筆者

▶特別寄稿◀

「記・紀」を裏側から見る—封印された邪馬台国と葬られた出雲の国が蘇える—

濱田 博文

(医学部医学科 昭和46年卒業)

「記・紀」と「魏志倭人伝」を、読めば読むほど深まる3つの疑問！

- ① 「記・紀」に書いてあることは、改竄、粉飾の匂いが強いけれど、どこからどこまでが史実か？
- ② 日本の最初の国史「記・紀」編纂者は、当時の知識人で中国の国史「魏志倭人伝」中の「邪馬台国と卑弥呼」は知っていたはずなのに、なぜ一言も本文に触れてないのか？
- ③ 「記・紀」に「出雲」のことが断続的に出てくるが、しかし内容は輪郭淡く。そのように「出雲」を書く事で、「記・紀」は一体何を言いたかったのか？
「記・紀」が書かれた奈良時代以前の歴史の文献を漁った（記・紀を裏側から見た）ら、真実が蘇ってきたので末記文献を敷衍し、また自分の考えも少し加えて報告します。

1. 出雲の国2代（素戔嗚 ➡ 大国主）

- ① 素戔嗚尊は出雲の郷士。素晴らしい魅力のある男性で勇猛果敢、頭脳明晰。造作された記紀神話と異なる。142年、出雲の豪族ヤマタノオロチを倒した（木次事件）後、北陸の越前、加賀、能登、さらに山口、筑前や豊前へ侵攻。同時に出雲特有の銅鐸信仰も持ち込んだ。

180年、九州（邪馬台国、他）侵攻。満州・蒙古由来の攻撃性の強い鉄兜・鎧、鉄刀の騎馬軍団には、防御中心の環濠集落は歯が立たず、素戔嗚の軍門に下る（後漢書＝「桓・靈帝時、倭国乱れる」）。弥生時代を謳歌していた西都に都を置き、九州を8年間統治。（記紀神話では、素戔嗚は悪役に造作されている）

九州侵攻の時、素戔嗚55歳、日霊女23歳。日霊女の方から勇猛・果敢な素戔嗚に接近して行って同居した。現地妻の形で3人の女子（約500年余り後の「記・紀」でいうところの宗像3女神）を儲ける。九州統治後、出雲に戻って出雲、九州全土で仁慈の名君と慕われた。＜モンゴロイドは末子相続＞。

- ② 大国主30年間：素戔嗚の末子相続人・須世理姫の養子となり、出雲・九州の広大な領地を統治。大国主は成長した素戔嗚の長女の多紀理姫（コノハナサクヤ姫）を日向妻として同居。この多紀理姫が事代主（大国主の末子相続人）を儲けた。

大国主は学者風で、多紀理姫と日向の温暖な九州統治生活が気に入り、AD215年（55歳）、西都の多紀理姫の許で亡くなった（本家本元の出雲に帰らず＝異例！）。

日霊女（後記）はこの娘婿のため、西都原に異例の出雲式の方形墓陵（常心塚古墳）を造営。（他方、日向は円墳➡柄鏡式前方後円墳➡完成型前方後円墳）へと発展。さらに大国主を祀った都農神社（日向一の宮）を建立。

次に、日向の事代主と母の多紀理姫（祖母は日霊女）は軍団（武御雷、天兒屋根、経津主らの武將）を伴い、出雲に乗り込む。しかし正妻側（素戔嗚の末子・須世理姫の、さらに末子相続人の武御名方）は認めず戦ったが敗北。追撃され、科野（しなの）の諏訪（当時の出雲王朝の領域の東端）へ逃亡、そこで捕まる。「終身、諏訪から出ない。出雲系の祭器の銅鐸等は廃棄し墓制の4隅突出型古墳は止める」と誓い許される。その後、武御名方の怨霊除けのため諏訪大社を建立➡以上がAD230年頃の「出雲の国譲り」の実態。「記・紀」編纂者は、出雲との戦いを穏便な国譲り神話に仕立てた。そして出雲王朝の鎮魂（怨霊除け）のため大和政権は出雲大社を建立。

約500年後の「記・紀」編纂者（天孫系）が、最初の国史である「記・紀」に天孫族一系を記録するため、この出雲系の2代を歴史から葬ろうと、神話を造作したり、神社の古文書を没収したり、祭神の名前を変えたり、系図を没収したり、苦心惨憺した。

2. 大和の初代王の饒速日尊＝天照国照大神と皇子・宇摩志麻治、皇女・伊助依姫

大歳は素戔嗚と九州平定を行ない、武勇の誉れと称えられる。その後、単独で大和平定へ向かい、大和の有力豪族・長髓彦の妹の三炊屋姫を娶り、大和を無血平定（饒速日と改名）。約30年間、大和の最初の統治者（出雲系）となり、天照国照大神と尊崇される。その後、相続人は幼い伊助依姫だが、長男の宇摩

志麻治が政務代行。

3. 魏志倭人伝における、朝鮮の帯方郡から邪馬台国までの行程と政治・風俗（「」は「魏志倭人伝」）

帯方郡から末盧国の唐津まではほぼ定説 → 「（唐津から）東南陸行五百里、伊都国に到る、千余戸（今の多久taku市）」。「女王の国（日向）の以北には、特に一大率（大役人）を置き、諸国を檢察せしむ。常に伊都国に治（シラ）す。～」。「（帯方）郡使常に駐する所なり。（長）官一人、副官二人。千余戸」。

交易で栄えた糸島を伊都国と比定する専門家が多いが、方角も唐津から北東で東南ではない。他の国は副官一人なのに、伊都国は二人。その割には千余戸と人口は少ない。伊都国は行政（官庁）都市で唐津はその外港。邪馬台国は政治・外交はだいぶ整備されていたらしい。

「其の国（九州）、本（もと）亦男子（素戔鳴尊→大国主尊=後記）を以て王と為す」。

「東南奴国に至る百里、二万余戸（小城ogi市）。東行不弥国に至る百里、千余戸（弥生末期の海岸線である佐賀市近辺=舟着場）」。ここから（邪馬台国が用意した）舟で有明海に出る。

「不弥国（=佐賀あたり）から南、投馬国（熊本平野）に至る。水行二十日。五万余戸」。有明海航路は「貝の道」として幹線航路であった。そこから「南、邪馬台国に至る、女王の都する所。水行十日陸行一月。七万余戸」。→ 出水平野、えびの、小林、高原盆地を経て、宮崎中央平野（耶馬台国）に着く。そこ（3河川流域）の古墳：1,600基以上。前方後円墳：350基余り→原初的柄鏡式前方後円墳も多数。畿内と並んで古墳の種類・数が多い（日高正晴：古代日向の国）。

「～其の余の旁国（本州・四国）は遠く絶へ詳らかに得べからず」（良く書けない）。

「次に斯馬（しま）国（種子島）有り。次に己百支（じはき）国（竹島）有り。～、～、次に奴国（与論島）有り（21ヶ国）。此れ女王の境界の尽くる所なり」。北は狗耶韓国・対馬から南は奄美列島まで、一気に倭国の地理を書いて、「此れ女王の境界の尽くる所なり」（奴国=与論島）と結んでいる。そこは現在も鹿児島県の南境界（与論島）でもある。

「其（奄美列島）の南に狗奴国（=球磨国）有り。男子を王と為す」。狗奴国は民俗学的に奄美列島と同じ球磨民族。「其の（長）官、狗古智卑狗有り。女王に属さず」。狗奴国（琉球）は普段から中国と交流も多かったので、琉球に関する文章は、以下、微に入り細に亘って、書きぶりもまた精彩を放っている。

「郡（此の誤写 ※）より女王の国に至る万二千余里」。 ※ 琉球の説明中に、突然、帯方郡を意味する「郡」という何の関係もない異質の文字が入りこんできては脈絡がなくなるので郡は此の誤写。琉球から、女王の国（宮崎）までの距離は、対馬～壱岐間の千里のちょうど十二倍である。即ち、「万二千余里」。

「男子は大小なく皆鯨面文身、古より其の使中国に詣（いた）る。～断髪文身、以って咬竜（ハブ）の害を避く。倭の水人（漁師）、好んで沈没して魚蛤を捕らう。文身は亦以って大魚（サメ）・水禽（すいきん）を厭（はら）う～」。やはり、熟知している琉球の風俗は生き生きと描かれている。ハブ除けに顔に彫り物をしたとか、サメ除けに彫り物をしたようなことは、九州・本州の歴史にはない。また牛馬がいなくて書いているが、琉球はいないが九州や本州にはいた（「記・紀」や古墳の副葬物）。

「そ（狗奴国）の道理を計るに、当（まさ）に会稽東冶の東に在り」。狗奴国（琉球）は会稽郡の東冶（今の福州市）の東方にある。東冶=蘇州とは異なる。以上の記述は琉球（球磨）国のこと。

（倭国などの地理の説明はここで終わる） ※邪馬台国の所在地は諸説あるが、その地理の全体（特に女王の境界の尽きる所や、その南に球磨国があり、中国の東冶の東に当たる）と細部の行程（特に方角）や海浜国か内陸国か、その風俗・生活などとの整合性が合うことが肝要である。専門家ですら、自分の行程・地理説に都合よく邪馬台国を推定して事足り、としている書物が多い。

4. 邪馬台国4代120年間の歴史

- ① 素戔鳴約8年間：180年（55歳）日向に侵攻し、九州全土を平定。宮崎県西都に邪馬台国の都を置く = 日本建国の祖。175年から約8年間、豪族の娘・日霊女と同居して、多紀理・多岐津・狭依姫を儲ける。素戔鳴逝去（63歳）：松江の熊野山に埋葬（熊野神社）。
- ② 大国主30年間；素戔鳴の末子相続人・須世理姫の養子となり、出雲・九州の広域（大国）を統治。
- ③ 大日霊女貴尊（卑弥呼女王）30年間；幼い相続人・事代主の政務代行 → 日霊女・女王擁立
- ④ 豊受姫（台与女王）約50年間（③、④は「魏志倭人伝」と「晋書」（648）に記録）
295年、大和朝廷の初代南九州鎮守使となった神武天皇の孫、武磐竜彦が政権を受け継ぐ。

※「記・紀」編纂者らは、当時の指導者（天武・持統天皇、背後の藤原不比等）の国創りの意志を受け、どんな有望な人物が現れても、天皇は天孫の血を引く者しか資格がないことを意味する。故に天皇は一系（願わくば万世一系）である事を日本初の歴史書に確定。

他方、素戔嗚を初代とする出雲の国は天孫族に討伐されたが、崇りを恐れた天孫族は「出雲の国譲り」と温和に表現し、出雲大社を創建して怨霊を鎮めた。さらに大和の初代王は素戔嗚の五男・饒速日で、天孫系の磐礼彦は饒速日の末子相続人の伊弉依姫の養子となり即位（神武天皇。それまでの天孫系を神話に仕立て上げた）。「魏志倭人伝」の「邪馬台国と卑弥呼」も出雲と深い婚姻関係にあり、天孫一系に合わないので「記・紀」から封印された。

5. 日霊女貴尊女王誕生

「一女子を共立して王と為す。名は卑弥呼といふ」。大国主の相続権のある末子の幼い事代主とその側近は協議の上、215年頃、祖母・大日霊女貴尊を女王に擁立する（逝去後は天照大神）。その後、日向では日霊女女王を中心に、大和と大同団結が図られた。＜出雲も日向もモンゴロイド同族で、末子相続＞。

大和の初代王：饒速日尊の相続人・末子伊弉依姫は25歳位に成長；兄の宇摩志麻治が政務代行中。日向の相続人は、大国主の末子相続人・烏萱草葺不合尊の、そのまた末子磐礼彦。

この日向と大和の相続人同士を結婚させることにより、日本を一つに統合するという壮大な計画が図られ、大日霊女女王を中心に、双方から根回しが行われた。

大日霊女女王は孫の磐礼彦（後の神武天皇）を伊弉依姫の養子として送り込み（大和東遷）、初代の天皇（神武）に即位したのは辛酉241年（大和王朝建国）。この時、大日霊女尊は87歳と推定。

「其の八年（247）年、倭の女王卑弥女、狗奴国（この狗奴国は、BC50年から始まった球磨国＝琉球国の移住による飛び地＝八代～球磨川～人吉盆地）の男王、卑弥弓呼と素より和せず（➡攻撃してきた；しかし戦争は膠着状態で終息した；後記）。魏国は辺境長官・張政に皇帝の激励の証書と軍旗（魏国の皇帝の印）を持たせたが、張政が着いてすぐ戦争中に女王は逝去（93～94歳）。「卑弥呼、以て死す（そして、卑弥呼は死んだ）」（死因は記載無し）。偶々魏国の張政が邪馬台国の都、西都に皇帝の激励を伝えに来ていて、この記録が「魏志倭人伝」に残った。

日本の歴史上、胆力と知恵のある大女王であった。➡大和王朝の神武天皇を即位させたのも日霊女の政略で皇祖に当たる。現在、伊勢の皇大神宮（内宮）に祀られて、通称を「天照大神」（本名：大日霊女貴尊）（出雲系の天照国照大神は抹消）。日霊女女王の墓陵は、西都原古墳の通称男狭穂塚で、長さ219mの（帆立貝型）前方後円墳。後円の底辺の直系は128m。径百余歩という大古墳は九州中探してもここしかない。

ところで、専門家の間ですら、『日本に神社は多いが、卑弥呼神社はない。卑弥呼の「邪馬台国」なんて幻影だ。あるいは逆に、「魏志倭人伝」自体が信用できない歴史書』という意見がみられる。しかし「日本書紀」では、「天照大神別名、大日霊女貴神」と記録されている。そして「記・紀」全体に渡り、天照大神（太陽神）は大日霊女女王と書かれている。主祭神を大日霊女貴尊（天照大御神）とする神社は、各県に少なくとも1社以上ある。鹿児島県は3社あり牧聞神社（薩摩一の宮）が良く知られている。この開門神社には、大日霊女貴尊とその子供8人（神）が祭神として勢揃いしている。

1・2子：素戔嗚と同居以前に儲けた2人（長男；押穂耳尊が邪馬台国北部を統治）

3・4・5子：素戔嗚と儲けた3女神（記紀は神話化）3. 多岐理姫 4.多岐津姫 5. 佐依姫（巖島姫）

6・7・8子：素戔嗚以後の愛人＝側近と儲けた3貴子（記紀は神話化している）

6子：ニニギの尊；北薩摩を統治（可愛山上陵）

7子：ホホデミの尊；南薩摩～指宿～国分を統治（高屋山上陵）

8子：ウガヤフキアエズの尊；大隅～都城を統治（吾平山上陵）➡末子磐礼彦＝東遷して大和王朝建国。

6. 台与女王誕生

「魏志倭人伝」曰く、（卑弥呼の死後）「更に男王を立てしも国中服さず、更（こもごも）相誅殺し千余人を殺す（日霊女女王の子孫一族同士の相続争いか?）」。「復た卑弥呼の宗女（卑弥呼女王の相続人の磐礼彦が大和東遷の時、日向に置いて行った吾平津姫との間の娘）の台与、年十三を立て王と為し（血統的正論）、国中遂に定まる（血筋は強し!）。（台与女王は）張政の還るを送らしむ。因って洛陽に詣り、生口三十人を献上し、白玉五十孔青玉（まがたま）二枚・異文（いもん＝変わった模様）二十四匹を貢（こう）す」

— ここで魏志倭人伝の全文は終る。—

さらに、「晋書」（唐648）に、台与女王は266年晋の皇帝（武帝）に使いを送った事が記録されている。

だから邪馬台国は滅亡したのではなく、大和朝廷の後ろ盾もあり、平穏な時代が続いた。

295年大和朝廷の初代南九州鎮守使となった神武天皇の孫、武磐竜彦が政権を受け継ぎ、神武天皇住居跡に宮崎神宮建立。かつ阿蘇の外輪山の原野を開墾して田畑にした➡阿蘇神社の祭神。

男狭穂塚の隣の大前方後円墳は二代目台与女王（豊受姫）の陵墓で、通称、女狭穂塚と呼ばれ、皇大神宮の外宮に祀られている。既述したように「魏志倭人伝」の「邪馬台国と卑弥呼」も、出雲と深い婚姻関係にあり、天孫一系に合わないので「記・紀」から封印された。

最後に、邪馬台（国）の読み方は果たしてヤマタイかヤマトか？ 江戸幕府お抱えの博識者といわれた新井白石（の、実は日中通詞の発音）が、ヤマタイと読み始めると、右へ做えみたい、皆がこぞってヤマタイと読み始めて、その後現在まで続いている。しかし、さらに良く調べたら、新井白石以前の国文学者らは「ト」と読んでいたが、ヤマトは新井白石の名前に雲散霧消した。ところが「日本書紀」に「興台産霊（コゴトムスヒ）、許語等武須玃（コゴトムスヒ）のように台が等と同じく「ト」と読まれている。また、台与女王は普通に、トヨと読んでいる。➡後のヤマト王朝との整合性も考慮すれば、ヤマトと読むべきではないか（中西 進、原田常治、井沢元彦、他）。

主な文献：日高正晴：古代日向の国、日本放送出版協会、1993 原田常治：記紀以前の資料による古代日本正史、同志社、1978 梅原猛：葬られた王朝、新潮社2010 山科威：日本書紀・古事記編纂関係者に抹消された邪馬台国、諷詠社、2014 他の多数の書籍は割愛。さらに原田常治氏が涉猟された古文書などは、以下の通り。

神社縁起、帝王編年記、石和聞見志書紀通証、続日本紀、皇年代略記、延喜式神名帖、古今皇代図、続国史略、史料通信叢誌、旧事記、熊野略記、文徳実録、旧事天神本紀、後漢書、梁書、魏志倭人伝、国華万葉記、和漢三方図会、万葉集、各地の古墳の発掘報告書、各国風土記（逸文）、阿蘇郡誌、古事類苑、神祇部「古事記」以前に建立され、涉猟しえた1631神社の膨大な資料や系図。他の多数の古文書は割愛。

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和4年度は、422件・32,984,461円のご寄附をいただきました。

＜寄附目的＞

○一般資金（全学的な活動を支援）

学生の海外派遣や留学生支援、若手研究者の支援など、教育・研究・社会連携活動を幅広く支援します。

[現在進行中のプロジェクト]

・学生海外派遣事業 ・地域貢献人材育成事業 ・留学生受入推進事業
・鹿児島大学地域活性化研究支援事業（若手研究者向け）

○特定資金（特定の事業を支援）

●修学支援事業基金：経済的な理由により修学が困難な学生等に対して経済的支援を行い、勉学の意欲のある学生を支援します。

[現在進行中のプロジェクト]

・離島出身者支援スタートアップ奨学金 ・編入学生修学支援 ・大学院生修学追加支援
●学部等支援基金：歯学部基金、鹿児島大学病院基金、練習船基金、医学部医学科教育基金、教育学部附属学校園基金、動物病院基金、工学部教育研究支援基金〔令和5年1月1日設置〕

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト ➡ <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>



お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課 広報・渉外室 基金・渉外係
TEL 099-285-3101 / FAX 099-285-3854
E-mail s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

令和5年度 鹿児島大学同窓会連合会総会・懇親会～卒業生の集い～を開催

4月8日（土）、マリnpレスかごしまにおいて、令和5年度鹿児島大学同窓会連合会総会ならびに懇親会～卒業生の集い～が開催されました。

総会では、以下の事項について協議が行われました。協議終了後、「-鹿児島大学の現状と展望-」と題して、佐野輝鹿児島大学長の講演が行われました。

懇親会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度より中止しておりましたが、平成31年4月以降、4年ぶりの開催となりました。今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小しての開催となり、約100名が出席し、各学部同窓会の近況報告や出席者紹介等が行われ、盛会のうちに終了しました。

<総会協議事項>

- 1 開会のあいさつ
- 2 鹿児島大学同窓会連合会長のあいさつ 富永 茂人 会長
- 3 鹿児島大学長のあいさつ 佐野 輝 学長
- 4 協議
 - 1) 令和4年度事業報告（案）
 - 2) 令和4年度収支決算（案）
 - 3) 令和4年度監査報告
 - 4) 令和5年度事業計画（案）
 - 5) 令和5年度収支予算（案）
 - 6) 役員改選について
- 5 鹿児島大学長講演
- 6 閉会のあいさつ

< 総会・懇親会～卒業生の集い～の様子 >



総会



懇親会



水産学部



教育学部同窓会



医学部同窓会



工学部



「北辰斜めに」に聞き入る出席者

令和4年度一般会計決算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和5年3月31日現在
(単位：円)

収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	1,348,984	1,348,984	0	
学部別同窓会分担金	900,000	900,000	0	
総会・懇親会費	0	0	0	総会(書面会議で開催)・懇親会(中止)
OBゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	令和4年度OB・OGゴルフ大会
雑収入	5	13	8	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合 計	2,298,989	2,298,997	8	

支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考	
会議費	120,000	15,528	▲ 104,472	幹事会・役員会(第1回幹事会のみメール会議形式で開催)	
総会・懇親会費	50,000	29,735	▲ 20,265	総会(対面で開催)・懇親会(中止)	
印刷費	400,000	460,625	60,625	会報34号、35号(支部分含む。)	
事務費	備品費	10,000	0	▲ 10,000	
	通信運搬費	30,000	41,720	11,720	郵送料、振込手数料
	消耗品など	10,000	2,086	▲ 7,914	目録封筒等
旅費	130,000	50,000	▲ 80,000	福岡支部総会(会長)・関東支部総会(延期)	
雑費	10,000	1,100	▲ 8,900	残高証明手数料	
慶弔費	30,000	0	▲ 30,000		
鹿児島大学への寄付	1,000,000	1,000,000	0	鹿大「進取の精神」支援基金への寄付	
予備費	508,989	43,000	▲ 465,989	ブラジル県人会便り広告、稲盛和夫氏顕彰広告	
合 計	2,298,989	1,643,794	▲ 655,195		

次年度繰越金：2,298,997-1,643,794=655,203円

令和4年度定期貯金決算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

通帳(郵便定期)	400,000
郵便定期貯金利息	200
合 計	400,200

令和5年度一般会計予算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(単位：円)

収入の部

項目	前期決算額 (A)	予算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	1,348,984	655,203	▲ 693,781	令和4年度繰越金
学部別同窓会分担金	900,000	900,000	0	振込手数料は振込者負担
総会・懇親会費	0	683,400	683,400	102名×6,700円
OBゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	13	5	▲ 8	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合 計	2,298,997	2,288,608	▲ 10,389	

支出の部

項目	前期決算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考	
会議費	15,528	120,000	104,472	役員会・幹事会	
総会・懇親会費	29,735	900,000	870,265	総会会場費・懇親会費	
印刷費	460,625	450,000	▲ 10,625	会報36号、37号(支部分含む)	
事務費	備品費	0	10,000	10,000	
	通信運搬費	41,720	30,000	▲ 11,720	郵送料、振込手数料
	消耗品など	2,086	10,000	7,914	
旅費	50,000	130,000	80,000	福岡支部総会【毎年開催】・関東支部総会【3年毎開催(昨年度延期分)】(会長)	
雑費	1,100	10,000	8,900		
慶弔費	0	30,000	30,000		
鹿児島大学への寄付	1,000,000	0	▲ 1,000,000		
予備費	43,000	598,608	555,608		
合 計	1,643,794	2,288,608	644,814		

令和5年度定期貯金予算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

通帳(郵便定期)	400,000
郵便定期貯金利息	200
合 計	400,200

鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapse.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail arataikai@aratadousokai.org

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8719
e-mail k1330977@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp